

# 募集班長の模型部屋(第28回)

皆さんこんにちは。前回の更新から約2ヶ月以上がたち、世の中はすっかりクリスマスですよ！秋は自衛官の各種採用試験時期でもあり、毎月何かしらの試験があり結構忙しく、このコーナーの更新ができませんでした。とはいえ、寂しい単身赴任の夜、模型はチマチマ作っていたわけで、その様子はツイッターで紹介させて頂いております。さて今回は、親戚からいただいたプラモから、またもや・・・

**ゼロ戦**です。



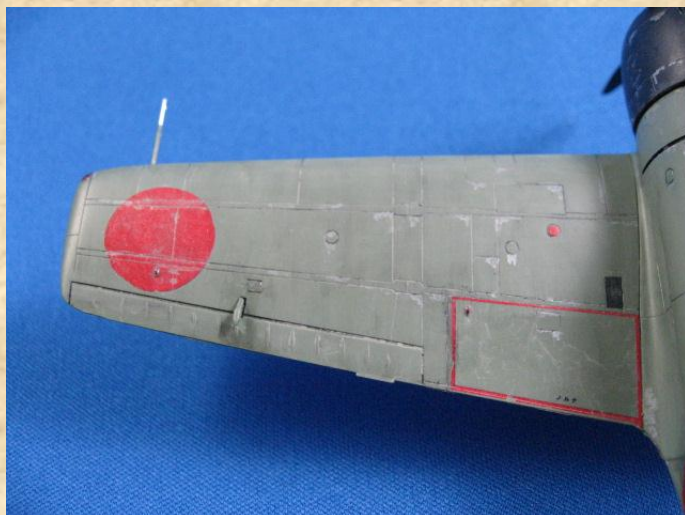
第21回で紹介させて頂いた零式艦上戦闘機52丙型はタミヤの1/48でしたが、今回はハセガワの零式艦上戦闘機32型の1/72と更にスケールが小さいキットです。大きさといい、パーツ数といい、夜プラモにはぴったりなキットでした。モールドも旧ハセガワのキットから金型を一新し、凸モールドから凹モールドとなり、スミ入れする事で更に精密度が増すキットとなっております。

キットが小さい上、カメラも小型のデジタルカメラでの撮影であり、ピントが合わない写真が多いですが、ご容赦ください。模型写真の撮影って難しいですね。



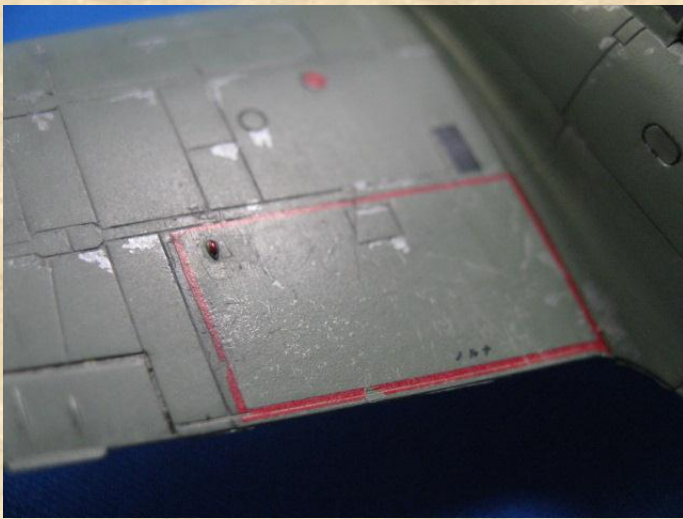


初期の21型の折りたたみ式主翼の部分を角型に変更した32型ですが、その評価にはいろいろあります。でも、私にとっての32型は、小学生のときに始めて作ったゼロ戦であり、当時どこのメーカーか忘れましたが、100円で戦艦と航空機がセットになったものが発売されており、そのキットについていたゼロ戦が32型でした。「あれ、なんか思っていたゼロ戦と形が違う・・・」と派生型の違いが分からない私には少しショックを受けた機体です。



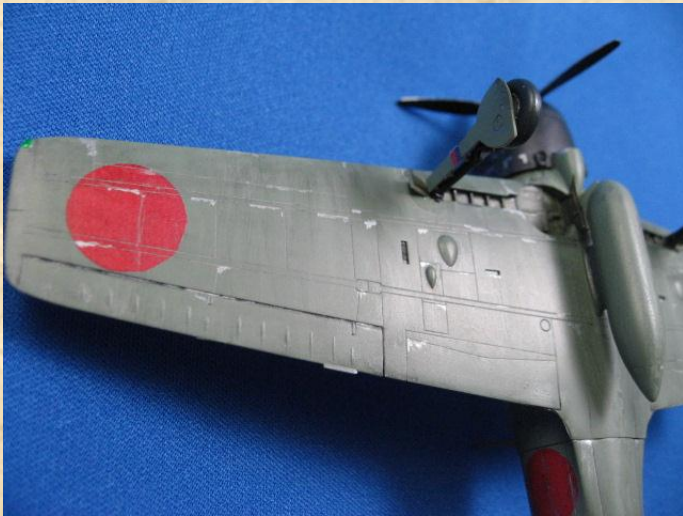
機体はクレオスの明灰緑色（中島系）を使用しました。明灰白色（三菱系）があまりにも明るすぎるかな・・・と思い、私のイメージを優先させてこの色を使用しました。ゼロ戦ファンに皆様に怒られそうです。





塗装後にスライドマークを貼り付けて、スミ入れ、タミヤのウェザリングスティックを薄く塗り、濡らした綿棒で拭き取ることで表面の光沢を落として使い込んだ表現を出しました。

このキットのスライドマークはなかなかキットの表面に馴染まなく、マークソフターやマークセッターをふんだんに使用してスライドマークの密着を図ったのですが、シルバリング（マークの機体表面の間に空気が入り、白く見えること）を起こしてしまいました。何回も何回もマークソフターを塗りつけてここまで密着させる事が出来ました。ツイッターで対処法を聞いたら沢山の方からアドバイスをいただきました。ツイッターってこんなときに便利です。



スミ入れを拭き取る時は、飛行方向に沿って拭き取ることで、機体に付いたススが流れる感じになり、お手軽な技法としていつも使っています。主脚カバーの矢印の箇所は増槽タンクが付くと接触するので曲がるようになってますので、カッターでスジをつけてゆっくり曲げて取り付けます。この加工をしないと増槽タンクや主脚カバーが上手く取り付けられなかったりします。この構造に気付くまでに時間がかかりましたね。



ススといえば飛行中、脚が主翼内に格納され、その表面に排気マフラーからのススが付着するのでそれも忘れてはいけません。ちょうど脚カバーの下部付近がそこにあたります。

雑な表現で、まだまだ勉強不足です。





飛行中の風圧で表面の塗膜がはがれた表現はいつまでたっても上達しません。なんかうそ臭い剥がれ方になってしまって・・・  
フラットアルミ色で少しづつ剥がれを塗っていきます。結構時間を要しました。



今度はハセガワの同スケールの旧キットをどこまで作り込めるかやってみたいと思います。乞うご期待！（誰もそんなもん期待していないか・・・）

ではまた自己満足の世界にお付き合いください。